（七）金沢市善性寺蓮如絵伝の絵解き

一　名称

蓮如さんのお絵伝のお絵解き、蓮如上人のお絵解き

二　伝承地

金沢市四十万善性寺

四十万町は金沢市南部の里山山麓、具体的には富樫断層崖に沿ってひろがり、石川郡鶴来町・野々市町に接している近郊農村であったが、近年宅地化が進んでいる。善性寺は真宗大谷派に属し霊宝山と号し、本尊は阿弥陀如来。寺記によれば応永三四年（一四二七）天台宗の僧教授が大仙寺を開基、三代法慶（法慶坊順誓）の時蓮如に帰依して真宗となり善性寺と改名、守護富樫氏の援助で寺礎を固めたという。東側通称「お山」の頂に、蓮如の遺骨を埋め聖地としている。金沢の蓮如忌は、市内の本願寺東・西別院よりも、四十万善性寺や二俣本泉寺のそれがより盛大におこなわれている感である。寺蔵の『三帖和讃並正信念仏偈』は、蓮如が文明五年（一四七三）に吉崎で開板したもので、県指定文化財になっている。

三　実施の期日及び場所

蓮如忌の時におこなわれる。戦前は四月二四より二八日迄、平成八年時は二四・五・六日の三日間営まれた。筆録したのは平成八年時におこなわれた絵解きである。二五日に例をとれば、午前と午後に勤行・法話があり、その間に昼のお斎がある。絵解きは、午前の部午後の部の間、お斎の中休みに、庫裡（現在は本堂後陣）で、善性寺役僧沢依正師（大正二年生まれ、故人）や門徒総代によりおこなわれていた。

四　芸態

（一）善性時の蓮如絵伝

金沢の真宗門徒は、蓮如にゆかりの深い寺を「蓮如寺」という。蓮如寺の代表格、四十万善性寺や二俣本泉寺には、当寺にしか存在しない蓮如説話を図柄にした、その寺独特の絵伝を所蔵する。善性寺蓮如絵伝は、横四六、縦一一三センチの大きさの軸二幅である。絵伝の作者は、先々代住職の坊守富勝美（画号は松光）で、三〇景で構成されている。第一景より絵題目を見ると、上人降誕、鹿子御影、母公遺訓、修学習字、継母孝悌、剃髪得度、八世伝燈、存師入寝、大谷破却、朝露真影、動橋奇瑞、吉崎繁昌、鬼面□□、□□□□、火中□筆、乳児済度、吉崎御難、浜坂乗船、富田□□、蛇身聞法、異国信者、三井□□、真影奉安、大坂建立、御文授与、神主教化、愛馬惜別、黄鳥遺訓、聖人暇乞、入滅奇瑞、葬場荼毘などである。この中、朝露真影、御文授与、神主教化などの画面は、善性寺特有のもので他寺には勿論ない画面である。

善性寺のように地方寺院が独自の絵伝を作り、時には蓮如に関する奇瑞奇談を交えて絵解きすることは、江戸時代末期には一つの風潮となっていた。奇瑞奇談を強調することは教団教義や絵解きの本質から外れるとして、東西本願寺は明治初期、絵解きを禁じている（赤井達郎『絵解きの系譜』）。

（二）絵解きの実態

本山の絵伝絵解きの禁令にもかかわらず、金沢を含めた加賀の蓮如寺では、門徒衆の強い期待に支えられ、蓮如絵伝の絵解きを連綿と続けてきた。